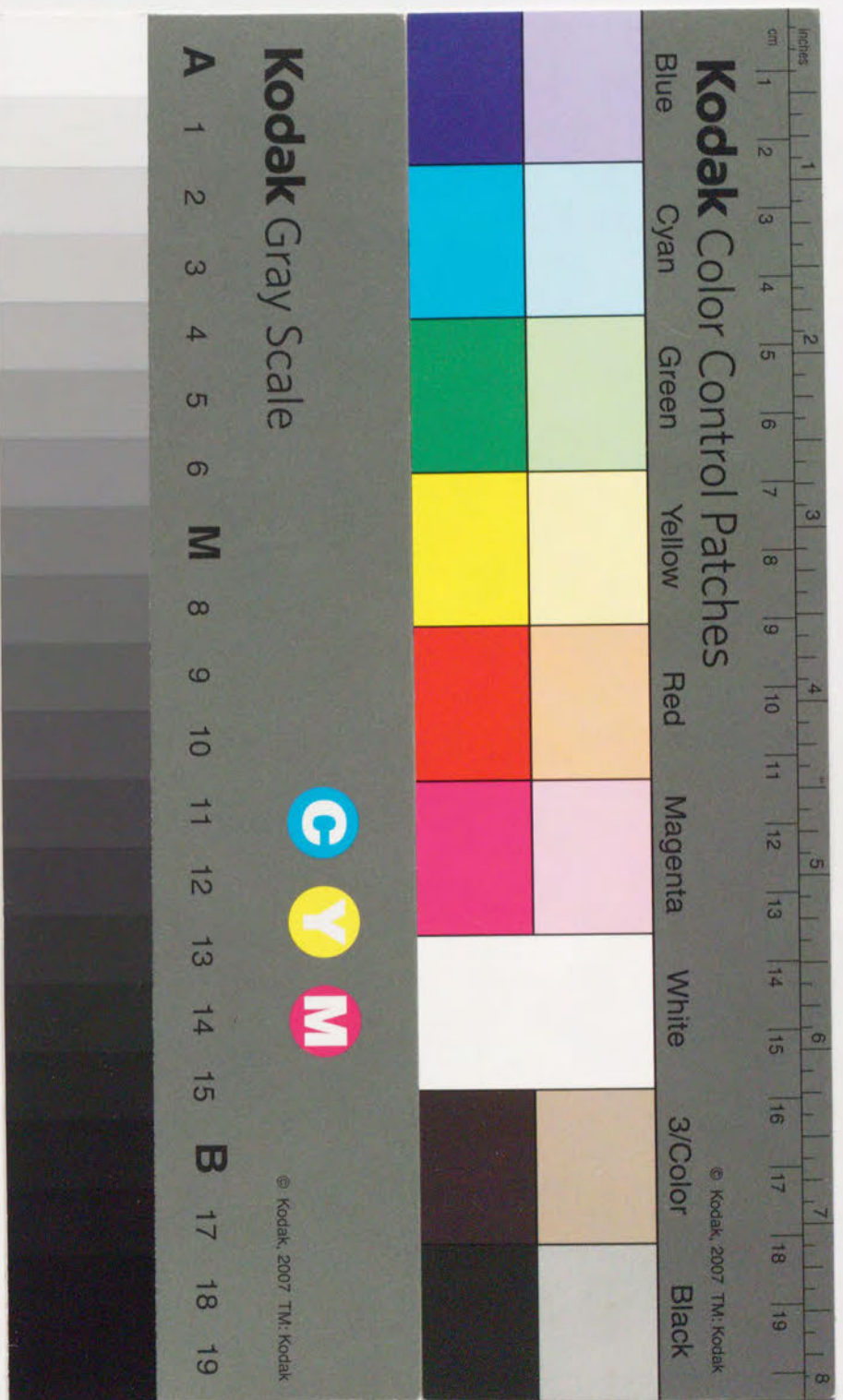




二十四義下

平楠判官

主楠左金吾附正元

主菊地武重附武元

主細川頼之

主上杉憲春



楠判官

太平記

正成も姓ハもろりもれぬ。河内さう王の素
え弘のうまきねふ。後醍醐天皇のうまきね
幸河内。此河内^やの^や幸あうて楠氏とちうぬ
もと光子せうひうふ。河内金剛山と
あふ楠氏^い。河内^い。河内^い。河内^い。河内^い。
おれくひあき。河内^い。河内^い。河内^い。河内^い。
わ。河内^い。河内^い。河内^い。河内^い。
ろが。河内^い。河内^い。河内^い。河内^い。

思ふに石劔のふいふ成ふやうなうらな
 物とせよと云ふうらな金劔山子葉と云ふ
 うらな一く城とこ一うくく名もつらと
 とけふものとも多くとこより居る一と
 京かぬうらな平族かぬちとやとを
 うらな一とくくうらなひひつらる軍と
 せうくすものわくふものねとせむと
 まくやううらなものとつらとひとく
 のうらなつらひと武士のなりとふらと

ありつて早にや——さきうに、**成**先き一を
 さきうに**板**方の——とあるし、うらさじ
 けりももおひきうしけり、**る**まきうにじこ
 の字ふうらうらぬと、**と**あるもあきく
 ころうれを**大**儀おとぎの**人**ねいうふとてひま
 くて、**國**のさきと**お**うきものまき
 おきとぬふと付たにあらう、**信**碇しん碇しん
 てもいひ信ふつとせうひて、**王**法一編の
 ありと、**お**きとて**れ**うう、**御**ふ**帝**みかどとて

ときひ ^ひ 勇 ^い 女 ^よ と ^い せし 倭人 ^い と ^い 用 ^い ひ ^い を ^い 守 ^い けり
 賞 ^い 賜 ^い けり ^い とも ^い あり ^い ぞ ^い 恨 ^い と ^い かり ^い けり ^い 又 ^い
 く ^い お ^い 来 ^い たり ^い けり ^い て ^い 天 ^い 下 ^い 幕 ^い 会 ^い の ^い 政 ^い と ^い あり
 う ^い う ^い の ^い ふ ^い ひ ^い 北 ^い 軍 ^い 四 ^い 方 ^い へ ^い 西 ^い 成 ^い お ^い 振 ^い 渡 ^い けり
 お ^い 女 ^い と ^い り ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 族 ^い 郎 ^い 等 ^い あり ^い けり
 勅 ^い 約 ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり
 城 ^い 西 ^い 成 ^い 大 ^い ひ ^い 女 ^い 戒 ^い へ ^い 志 ^い 忠 ^い の ^い 戒 ^い へ ^い あり ^い けり
 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり
 才 ^い 西 ^い 氏 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり
 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり ^い 一 ^い 方 ^い へ ^い あり ^い けり

氏女は傍流をりてくうのふは河内とう
城どぬーう、帝の心おとみい、西ーうね
しめーちうねむ中細え倉房うー
凍わなううねも、まー石つまううねむぶ
成あき城あづさうて、藤原ふううー
まーまおらううあうまーてかくやう
あきまあさ事ふりてまうかーうの余う
中ゆううまよ代とも人の心おとみ
かううてあうて沖政あもまて式の花

法をふくむくち法とてなりたりきふ
まふき法ふりきむ古れ人も内きき
こふび^れとてふ免あうてもわやまわ
ておろくろくや^えに^え保わたりたりと人
ものや^えとていりるへきや人のえき
おろくろく人の中あきさきとて
あふ人うろく^えに^え握柄のむろくそてあふ
あふ^えのきき^え人をも思ひゆり^え人^えは
こき^えり^えたまふ^えりやまう^え人のけき^え

りる人奉付ふ^え法^えりるも奉付^えき
を^えう^えき^え奉付^えりる法のゆき^え
つけき^えき^えふ^えき^えのゆき^え
あふ^えき^え海^えのき^えき^え山
のき^えき^え奉付^えき^え
あふ^えき^えき^えあふ^えき^え
ものき^えき^えき^えき^え
ゆき^えき^えき^えき^えき^え
して政^えき^えき^えき^えき^え

うきく人ふり理もつうゆるまふり
あつにともうけつーゆるものともんゆる
うきもー人にやうにやうやう文も
あびつうーとくひもやうにやうにやう
のうにやうにやうにやうにやうにやう
うきも今に人ふーとくひもやうにやう
ゆるにやうにやうにやうにやうにやう
ゆるにやうにやうにやうにやうにやう
ゆるにやうにやうにやうにやうにやう
ゆるにやうにやうにやうにやうにやう

あけしーるゝあめんちうりへてまふゆき
よ哉のらもてまんこあひさうろつあひい
きふえーろつあひさふおとまりをわい
しくゆるあけくころともくころふんま
らのむもゆるんとおもあか人めいとと
かつらんをもゆるふやく、ちくりするぶお
ええす
いのねみふやせーくふーゆるにーてやりくと
アサギもてるてまきうーくるまよくゆるんぬ
又罪人のまちまでも昔さいごい推古帝の時やまと

[illegible][illegible]

事とも何事もふりてきりくくしきと
てゆれ、法をふ堂西にききいひて、
り、事、准后の心、
くトとも、
何、
く、
き人、
れ、

り、
は、
大、
令、
、
事、
、
、
、

うふー戦切とそけいふくしうく流んとまね
も、常肉を准后ふれんてまうめくき
わあま坊の泣おろ奸汁の、之業とに
信りゆりぬを正成るちえとたどかち
の或切おとつあんて、君の地とてはじ
ちうしてふーやー乃りぬを流す心
あり之業をと用ひかうとありおりある
何れも、正あまうとてなむこころを
流れて、明らうくと失ひかきあへる

[illegible]

[illegible][illegible]

